

◇第 16 話 医療と介護の意外な関係◇

全国 47 都道府県を比較すると、要介護認定を受ける人の割合や介護保険料には大きな差があります。

たとえば沖縄県や福岡県では、要介護の割合が男女ともに高い一方、千葉県・茨城県・長野県などでは低めに抑えられています。

では、この差はどこから生まれるのでしょうか。

興味深いのは、人口当たりの病院や病床数が多い地域ほど、要介護の割合も高いという点です。

本来なら医療体制が整っていることは安心につながるはずですが、実際には「病院が多い地域ほど介護が増える」との逆説的な結果が見えてきました。

長期入院がしやすい環境は、むしろ体力や生活機能を落とし、要介護状態を増やしているのかもしれませんが。

一方で、高齢者の就業率や自宅で暮らす割合に注目すると、まったく違った傾向が明らかになります。

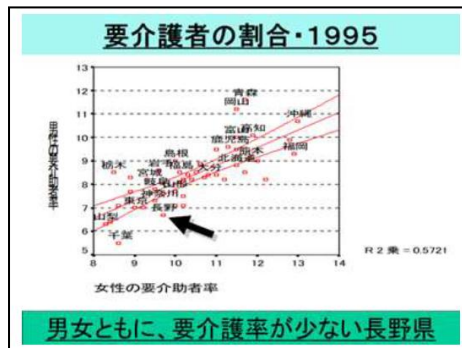
研究モデルでは「医療施設の状態」と、「高齢者を取り巻く環境」を比較したところ、後者が介護を減らす強い効果を持つことが示されました。

具体的には、医療施設の影響を 100%とした場合、高齢者の就業率や在宅での生活環境には、約 73%もの抑止力がある、という結果です。

つまり、高齢者が元気に働き、生きがいを持ち、できるだけ住み慣れた自宅で暮らし続けることが、要介護の予防に直結するということです。

実際のデータでもその傾向が裏付けられています。長野県は、全国一の高齢者就業率を誇り、岩手県も高水準です。

こうした地域では病院に通う割合が少なく、結果として要介護認定率や介護保険料が低く抑えられています。「働くこと＝生きがい」が健康を



支え、介護を遠ざけているのです。

要介護予防のためにまず心がけたいのは、以下の 3 点です。

- ・生きがいを持ち、できる範囲で働き続けること
- ・不必要な病院受診を避けること
- ・特に長期入院をできるだけ避けること

日本は先進国の中でも入院期間が非常に長く、約 4 倍にのぼります。大腿骨の骨折などで入院し、そのまま寝たきりになって要介護が進む例は決して少なくありません。

医療の充実はもちろん大切ですが、それ以上に「働く・暮らす・支え合う」という日常の営みが、高齢者の介護予防に大きな役割を果たしているのです。

(著：東京都立大学 名誉教授 星旦二)

◇令和 7 年 第 3 回 ファース施工検査員講習開催◇

10 月 2 日(木)・3 日(金)の 2 日間にわたり、北海道北斗市ファース本部本社で、令和 7 年第 3 回新規ファース施工検査員講習会(考査試験有)を開催いたしました。

今回は、(株)ミズノ硝子建材(北海道)、(株)オトミチ(青森県)、(株)大倉ホーム(島根県)、(株)山倉建設(香川県)の 4 社 4 名様が受講されました。

本日 3 日(金)に実施した考査試験では、受講者全員が優秀な成績で合格して、ファース検査員の資格を取得されました。

尚、今年の「検査員講習」は今回が最後となります。資格をお持ちでない工務店様、販売代理店様は、来年開催される「検査員講習」を受講してください。



MSJ ファースフラット 35 令和 7 年 10 月 1 日 金利のお知らせ

借入期間	ご融資金利	金利は毎月 1 日に変更
15 年～20 年	1.50%	金利は融資実行時金利
21 年～35 年	1.89%	返済日は毎月 5 日です
36 年～50 年	1.99%	(長期優良住宅認定を受けた住宅が対象)

現場見学会のご案内

【北海道札幌市】「ファースの家」構造見学会

日程：10 月 4 日(土) 5 日(日)

時間：10:00～17:00

会場：北海道札幌市白石区栄通 18 丁目

主催：(株)南原工務店 TEL011-376-1767